

本株主通信は2018年3月末時点での株主の皆様にお送りいたしますことをご了承ください。

株式会社 **日本マイクロニクス**
証券コード：6871

株主・投資家の皆様へ

株主・投資家の皆様におかれましては、平素より格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

ここに2018年9月期上半期の業績について、ご報告させていただきます。

上半期の半導体市場は、スマートフォンやサーバー等のアプリケーションへのメモリ搭載量が増えたことで、DRAM、NANDのメモリ需要が大幅に高まった他、データセンター、車載、産業機器等向けデバイス的高速処理に対する要求から、先端ロジックの需要も増加しました。一方、FPD市場においても、スマートフォンのOLED採用、TVの大型化・高精細化等が進んだことに加え、車載パネル等の他のアプリケーション向け需要も増え始め、安定的に成長しました。このような状況の中、当社グループの業績は、売上高15,324百万円（前年同期比8.5%増）、営業利益1,775百万円（前年同期比528.8%増）と、大幅な増収増益となりました。

当社グループは現在、今後の進むべき方向を明示した『MJC Future Vision』のもと、新たな成長軌道を歩み始めています。引き続き、当社独自の総合管理システム「QDCCSS*（クダックス）」の更なる深化を図りつつ先進的な技術開発に取り組み、持続的な成長と株主価値の最大化を追求してまいります。

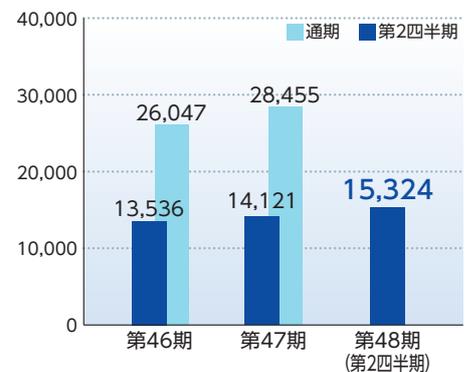
株主・投資家の皆様におかれましては、
なお一層のご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

2018年6月

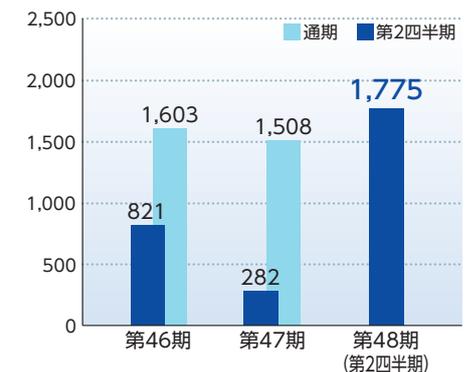
代表取締役社長 **長谷川 正義**

※QDCCSS(呼称:クダックス)
当社独自の総合管理システム。製品の開発から製造、資材、物流、管理、システム構築のあらゆる段階において、全ての社員の力を結集してQuality、Delivery、Cost、Compliance、Service、Safetyの改善及び改革に取り組んでいる。

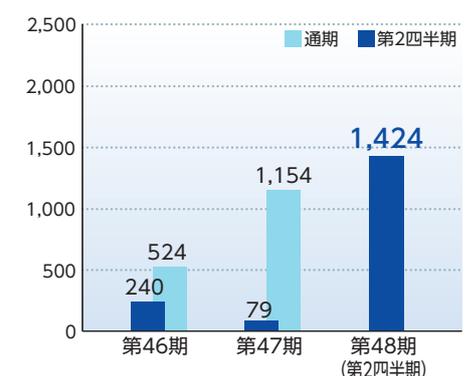
■ 売上高(百万円)



■ 営業利益(百万円)



■ 親会社株主に帰属する四半期(当期)純利益(百万円)





『MJC Future Vision』のもと、 新たなテクノロジーに柔軟に対応し 持続的な成長を目指してまいります

Q

第48期上半期の取り組みと
経営成績をどのように
評価していますか。

A

当上半期は、DRAM、NANDを中心とした旺盛なメモリ需要を確実に取り込む一方、半導体装置関連やプローブユニットの拡販に注力しました。こうした取り組みの結果、当上半期におけるプローブカード事業の売上高は前年同期比で17.3%増、セグメント利益は同じく225.7%増となり、業績の回復傾向が一段と鮮明になりました。一方、TE事業は前年度の業績に寄与した半導体テストの需要が減少し、減収減益となりましたが、自動光学検査装置（AOI）の売上増加等の成果もありました。

また、当上半期は中国・東南アジアを戦略上重要な地域と捉え、その事業基盤の強化に力を注ぎました。2016年12月に設立した現地法人MJC Electronics Asia（シンガポール）が本格稼働を開始し、当社グループが主体的に市場開拓と顧客対応を行う機動的な事業推進体制が整いつつあります。販売代理店を介さず、直接お客様と向き合うことにより、顧客ニーズの的確な把握と迅速な意思決定が可能となります。『MJC Future Vision』の理念実現へ、また一歩前進した成果の多い半期となりました。

Q

『MJC Future Vision』を
策定された背景と狙いを
改めてお聞かせください。

A

当社グループは2017年9月期まで、対象期間3年の中期経営計画に基づいて事業展開を進めてきました。しかし、当社が軸足を置く半導体・FPD市場はボラティリティ（変動性）が高く、年限を固定した計画では市場環境に即応した事業戦略を立案・実行することが困難になっていました。こうした認識を踏まえて2017年11月に策定したのが『MJC Future Vision』です。

当ビジョンでは、当社が長期的に目指す姿を「QDCCSSを更に推し進めて品質と納期での競争力を高め、市場へ安心・安全を提供することで『より豊かな社会の発展に貢献』する」と決めました。またプローブカード事業やTE事業において競争優位性の維持と安定的な収益の確保に注力すると同時に、当社第3の柱となる新事業の創出に向けて研究開発の加速に取り組むことを重点施策として掲げました。こうした取り組みの一環として2017年10月には新事業研究開発本部を新設し、二次電池にとどまらず、さまざまな次世代技術・製品の創造に経営資源を積極投入しています。

Q

MJCの競争力を支えている
QDCCSSについて
詳しく説明してください。

A

QDCCSSは当社独自の総合管理システムです。お客様の信頼に応えるため、製品の開発から資材調達、製造、管理、システム構築まで、ものづくりのあらゆる段階においてQDCCSSで定めた6つのテーマに沿って改善と改革を進めています。

QDCCSSは、ものづくりの要件を6つ単に並べたものではありません。当社の生命線である品質の維持・向上（Quality）を冒頭に掲げ、次いでお客様の機会損失を防ぐための納期厳守（Delivery）、更に価格競争力を拡充するための原価低減（Cost）と、それぞれの頭文字を重要度順に配置しています。近年、IoTの社会への浸透や自動車産業における自動運転技術の進展など、LSIと人の関係がより緊密化してきました。それに伴い、最終ユーザーの安心・安全を支える基盤として、検査工程の効率化・高度化に対する各メーカーの関心が高まりを見せています。当社グループはこれからもQDCCSSの更なる深化に取り組むことにより、より豊かな社会の発展に貢献していきたいと考えています。

Q

最後に、株主の皆様へ
メッセージをお願いします。

A

当社グループは1970年の創業以来、グローバルカードのリーディングカンパニーとして、着実な成長を実現してきました。当上半期の好業績はそのひとつの到達点だと認識しています。

第48期下半期も、旺盛なメモリ需要を背景に、良好な経営環境が続くものと見ています。長期的視点に立った『MJC Future Vision』のもと、市場や業界を刷新する新たなテクノロジーに柔軟に対応し、当社独自の価値を産業界と社会に向けて発信していきます。そして、次世代を担う人財の育成と闊達な企業風土の醸成に努め、新たな成長を目指してまいります。

株主様への利益還元については、従前通り、将来投資の原資となる内部留保を確保しつつ、安定的な配当を継続していく方針です。株主・投資家の皆様におかれましては、当社グループの事業活動に対するなお一層のご支援とご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。



TOPICS

ウェブサイト・トップページのデザインを変更いたしました。

当社ウェブサイトのトップページが、経営理念と「Probing the Future」をビジュアル化したデザインに変わりました。このデザインは、当社グループが未来を見据え、ワールドワイドで安心・安全を広く社会に提供し続けていくことを表現しています。また地球を取り巻くように伸びているラインは、当社グループの「未来へ続く道」を示しています。

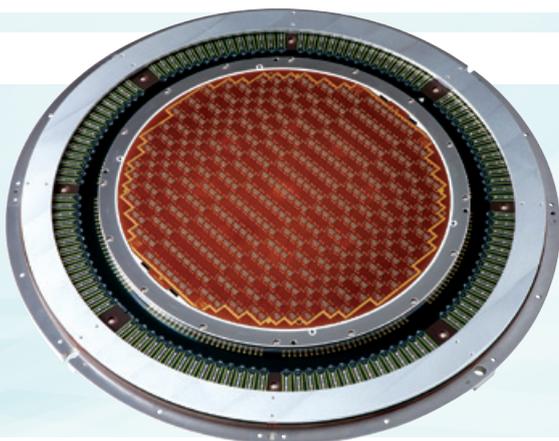
当社グループは「電子計測技術を通して広く社会に貢献する」という経営理念のもと、『MJC Future Vision』に向かってQDCCSSに取り組む決意を、このキービジュアルで表現し、社内外に発信していきます。



営業の概況

プローブカード事業

プローブカードは、ロジック向けは伸び悩みましたが、DRAM向けが底堅く推移した他、NAND向けが好調に推移したことで、全体としては増収となりました。利益面におきましても、売上高の増加に加え、プロダクトミックスの変化や稼働率が向上し、増益となりました。この結果、売上高は13,235百万円(前年同期比17.3%増)、セグメント利益は2,698百万円(前年同期比225.7%増)となりました。

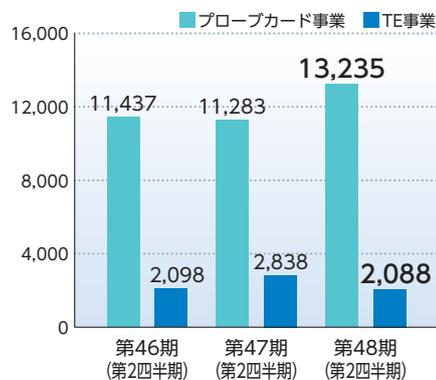


TE事業

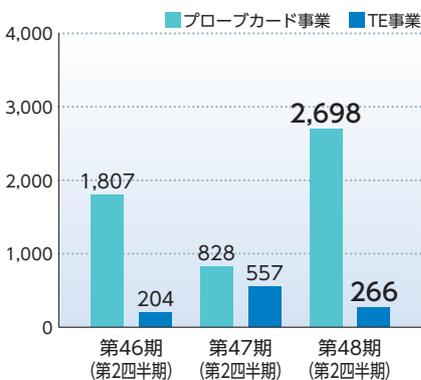


プローブユニットを含めたFPD検査機器は前年同期並みとなったものの、前連結会計年度の業績に貢献した半導体検査装置の需要が減少し、全体としては減収となりました。この結果、売上高は2,088百万円(前年同期比26.4%減)、セグメント利益は266百万円(前年同期比52.1%減)となりました。

■ セグメント別売上高(百万円)



■ セグメント別営業利益(百万円)



※セグメント利益には、全社費用は含まれません。

■ 地域別売上高構成比(百万円)



日本	3,987(26.0%)
韓国	4,467(29.1%)
台湾	3,738(24.4%)
その他アジア	1,683(11.0%)
米国・欧州	1,449(9.5%)

業績予想

売上高		営業利益		親会社株主に帰属する当期(四半期)純利益	
第3四半期(累計)	22,800百万円	第3四半期(累計)	2,400百万円	第3四半期(累計)	1,900百万円
通 期	30,600百万円	通 期	3,300百万円	通 期	2,600百万円

株式事務についてのご案内

株主名簿管理人 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
 連絡先 東京都府中市日鋼町1-1 電話0120-232-711(通話料無料)
 郵送先 〒137-8081 新東京郵便局私書箱第29号
 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部

株式会社 **日本マイクロニクス**
MICRONICS JAPAN CO., LTD.

本社 〒180-8508 東京都武蔵野市吉祥寺本町2-6-8
 HPアドレス <http://www.mjc.co.jp/>